

人口減少地域住民の生活環境意識の分析

福岡大学工学部 学生員 ○ 国分恒彰 正員 井上信昭
伊藤圭詞 正員 堤香代子

1. はじめに

九州は過疎化の先進地である。表-1に示すように、九州七県で過疎市町村の占める割合は、自治体数では52.6%、居住人口でも18.7%、面積では77.6%にも達するものであり、置かれている状況の深刻さを伺い知ることができる。こうした地域では、いろいろの地域活性化策が試みられているが、一方でそうした策を立案する前提となる、住民意識等の基礎的データについての蓄積が乏しいという問題がある。

そこで本研究では過疎市町村の一つとして福岡県上陽町を対象に、生活意識や交通実態についてのアンケート調査を行い、その中から生活環境等に関わる内容について報告するものである。

2. 上陽町の概要

上陽町は県南部八女郡の東北部に位置し、四方を殆ど山に囲まれた農林業を主体とする町である。主要地方道八女香春線が星野川に沿って通っており、この主要地方道一帯および山間の標高80~400mの地帯に多くの集落が散在する。図-1に示すように4つの大きな地区に分けられ、北川内地区が中心地区である。

上陽町の人口と人口減少率を図-2に、地区別の人口減少率を図-3に示す。5年単位の人口減少率は概ね4%程度の状態が続いている。その結果、過去20年間の減少率は15.1%であるが、これは全国値(20.5%)よりは若干低い。また、これを地区別にみると町の中心である北川内地区はさほどではないものの、他の地区ではかなり高い減少率となっていることがわかる。

3. 調査の結果と考察

(1) 調査の方法

調査対象者は、まず選挙人名簿から町の世帯数の約1/3にあたる410人の有権者を無作為抽出し、その家族を含む人々とした。調査票は世帯票および個人票で構成した。世帯票は世帯属性とともに、自然環境、道路整備状況、下水道整備の必要性等についての意識を調べ、個人票は個人属性、暮らしやすさの意識、交通実態等を調べるものである。ここでは交通に関わる内容を除く結果について報告する。なお、調査は学生が訪問留置・回収で行った結果、世帯単位での回収率は約65%であった。

表-1 過疎市町村の概要

(単位:千人, km²)

地 域	過 疎 地 域		
	市町村数	人 口	面 積
福岡県	25 (25.8)	327.1 (6.8)	1,204.9 (24.9)
九州七県	272 (52.6)	2,270.5 (18.7)	23,852.3 (77.6)
全 国	1,165 (36.0)	7,628.8 (6.2)	175,097.0 (46.4)

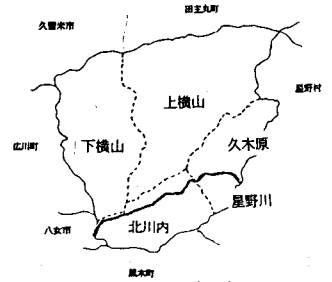


図-1 調査地域概要

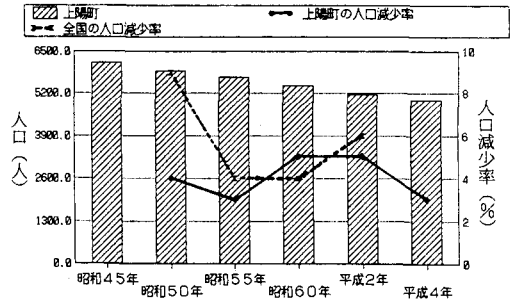


図-2 上陽町の人口と人口減少率

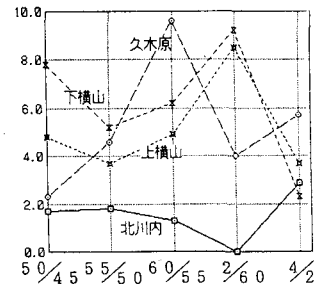


図-3 地区別にみた人口減少率

(2) 主な調査結果

図-4は（上陽町への）定住意識および生活環境への満足度を示す。これを見ると“いずれ町を出る”とする人が23.7%にもなり、上陽町では今後更に人口の減少が懸念される。定住意識と生活環境の満足度との関係では“ずっと住み続ける”と答える人の“非常に満足”，あるいは“満足”の割合が50%を超えているのに対し，“いずれ町を出る”とする人ではこの割合が

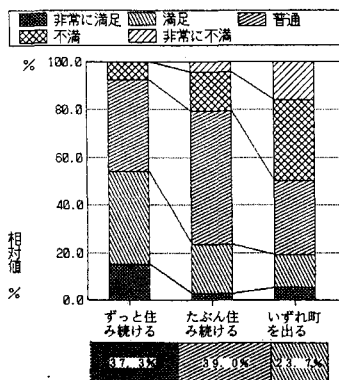


図-4 住み続ける意志と生活環境の満足度

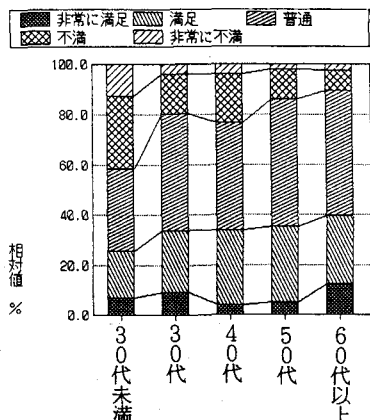


図-5 年代別にみた生活環境の満足度

20%にも満たず、定住意識と生活環境への満足度の間に強い関係が認められる。図-5は年代別の生活環境満足度を示す。30才未満の若い世代での不満の割合が高い一方、30才代以上では年令による差はあまり顕著ではないが、加齢とともに少しずつ満足度が高くなる傾向がみられる。

図-6は、上陽町に隣接する二つの村（矢部村、星野村）との地域振興策に比較して、上陽町の現状を評価してもらったものである。両村は，“柚の里構想”，“スターライトプラン”など都市との共生を目指した活性化策を積極的に行っていることもあり，“上陽町自体がもっと努力すべき”とする声はかなり強いといえる。

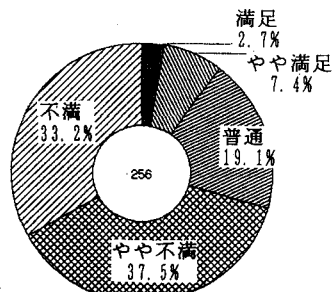


図-6 上陽町の地域振興策に対する評価

図-7は、行政が行う事業の優先度を示す。“道路の整備”と上陽町の基幹産業である“農業の振興”が強く取り上げられている。上陽町の基幹産業の一つである林業の振興についての指摘も考えると、やはり、上陽町の地域振興は第1次産業を基本とすべきものと思われる。また近年、下水道の整備が過疎地域でも非常に重要な課題になっているが、図-8に示すように、上陽町でも整備を求める意見は多い。ただその整備時期については“将来的に必要”とする意見と“（早急に）必要”とする意見が拮抗している状態である。

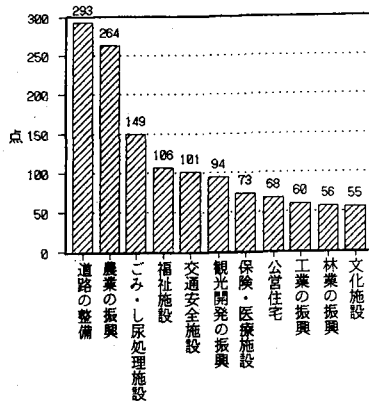


図-7 力を入れて欲しい事業

4. 課題

暮らしやすさあるいは生活環境の満足度を、個人属性や生活基盤施設の整備水準といったものから評価できるような評価システムの作成が必要である。また、一概に過疎地域といっても、その度合や抱える課題等は各市町村ごとに千差万別である。上陽町は地方拠点都市の久留米市に隣接することもあり、他の過疎地域と比べれば相対的にはまだ恵まれている面もある。従って、過疎化のより深刻な市町村等についても同じような調査を行い、比較を行うことも重要な課題である。

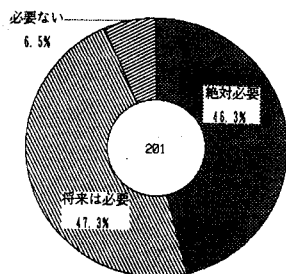


図-8 下水処理システム導入の必要性